

九州ブロック訪問看護ステーション連絡協議会 会議

日時 平成 29 年 11 月 18 日 (土)

時間 10 時から 12 時

場所 長崎県医師会館 3 階会議室

ブロック	氏名		連絡協議入会金	加入率
福岡県	小玉孝子 佐藤菜々子	福岡県看護協会 訪問看護ステーション「くるめ」 福岡県医師会事務局	12,000 円	約 4 割
佐賀県	馬場美代子	佐賀県看護協会 野の花管理者	20,000 円	
熊本県	木村浩美	訪問看護ステーション九州ブロック理事 医療法人 寿量会 医療連携支援部課長 訪問看護ステーション清雅苑 管理者	7000 円	約 8 割
宮崎県	岩村優子 岩満文子	湯由亭代表取締役	30,000 円	約 7 割
鹿児島県	上藺妙子 田代奈津子	始良地区医師会 訪問看護ステーション 室長 公益社団法人 在宅ケアサポート南風 所長	30,000 円	約 6 割
大分県	野田道子	別府医師会	20,000 円	
沖縄県	宮城愛子 渡嘉敷美和子 志茂ふじみ		30,000 円	7 割～8 割
長崎県	松島由美	訪問看護ステーション なるみ 所長	24000 円	ほぼ 10 割

報告事項

熊本	災害時の対応 資料配布 災害時など、SOS を発信できる職場づくり。ステーションからその上の組織 またその上の組織と連絡できるようにしている。 地震など集中することを想定して、圏域の端と端をパートナーにするとよい。 訪問看護師の安全管理について、看護師に一人一人渡して有効活用できるポケットサイズの要点を記載したものを作成中。 公用車のガソリン補給は、半分以下になったら満タンに！を厳守していたため、今回の地震時にはガソリンスタンドで待つことはなかった。
長崎	人工呼吸器や吸引などの自家発電を利用する場合、人工呼吸器にはバッテリー内蔵している為何とか対応はできるが、吸引の電源が問題かと予想される。
	長崎は、協議会の入会率が良いため、この会議を活用し災害時の対応について話し合いを継続したい。

	<p>看取りについて、在宅訪問医師が死亡時間を家族にいつ呼吸が停止したかなど聞き取り その死亡時間としている場合もあり このような場合訪問看護師の訪問算定ができない。</p> <p>特定行為については、長崎にも島が多いが五島などは在宅支援がうまくいっており、喫緊の問題はない。</p> <p>長崎にはアジサイネットという 医師同士のサポート体制がある。</p>
鹿児島	<p>看取りについての研修</p> <p>鹿児島の現状では、訪問診療をする医師も不足しており、医師同士のネットワークを結ぶにもその人材不足にて死亡の診断が困難な場合がある。</p> <p>そのため、特定行為に関連する研修に参加したが、看護師が特定行為での看取りを行う場合、打撲の跡がないか等 自然死なのか診る必要がある。研修に参加したものの、そのレベルは著しく高いものと感じた。</p>
佐賀	<p>佐賀県全体では看取り件数は少ない地域である。それを積極的に対応しようとする方向にはないようだ。</p> <p>当事業所では年間 50 例の看取りの実績がある。またホスピスなどの道筋などもできている。</p> <p>個人的には特定行為 ICT のみとりについて、勉強したいと思う。</p>
大分	<p>大分県にも、姫島という島があるが、大きな診療所があり在宅支援を行っている。</p> <p>別府市は Dr ネットがあり、約 40 人くらいの医師が加入して訪問医師同士で不在時のサポートをしている。</p>
宮崎	<p>医師の支えあいについては、出身大学が同じであったり 3 人で組むなど 看取りなどに対応してもらっている。</p> <p>また、地域によっては、70 歳以上で選挙に行くことが困難な場所もある。過疎地域はスーパーがなく 食べるものを買うことができない。</p> <p>よって栄養状態も悪く、置き薬でなんとかやりくりしている地域もある。</p>
沖縄	<p>高齢者住宅への訪問看護について、施設の看護師が休みの時にのみ訪問看護を依頼される場合が多い。</p> <p>概ね高齢者住宅は、日中はその住宅に付帯しているデイサービスを利用するが多い。</p> <p>訪問看護の依頼時間は、デイサービスが終了した 16 時以降などになり、かかわり方について検討する必要があると思う。</p> <p>運営は医師会であったが、現在は看護協会で行っている。</p> <p>会費は 3 万円であったが、その半分は書籍など様々な運用を行い半額分は事業所に還元できるような運営を行っている。</p>
福岡	<p>訪問看護事業所がここ 1 年～2 年間 500 事業所を超えた。現在福岡県を 19 の保健所圏域に分かれ、各地域で同行訪問や看取り 緊急時の対応など地域での活動を行っている。災害支援時には看護協会がチームを組んで派遣している。</p> <p>熊本の事例のように、いま行っている連携事業のなかに 災害時にネットワーク体制も盛り込むといいと感じた。</p>

その他

大分：一般社団法人として独立する予定である。20 年間医師会のもとで行ってきたが、会費を上げると加入率が悪くなる可能性もある。運用にしては国の事業を多く引き受けることが必要である。専従職員の人件費なども必要である。